

キャリア目標に応じた人材養成の戦略的展開

(実施期間：平成 20～24 年度)

実施機関：北陸先端科学技術大学院大学（総括責任者：片山 卓也）

プロジェクトの概要

平成 20 年 4 月から実施の「新教育プラン」は、全学的な人材養成システム改革であり、これを基礎・前提として、イノベーション人材の養成システムを構築する。特に高度専門技術者の拡大を目指し、博士後期課程では技術者タイプ「タイプE」を中心としつつ、科学者タイプ「タイプS」との2つの履修タイプから選択させ、ポスドクも含め、学内外へ公募を行う。特に、実践研究では企業等の提示したテーマに学生が応募する形で受入を判断する。運営に当たり、学長をトップとする統括委員会等を置き、企業等の意見を汲みつつ運営する。また、県等の機関や企業等と意思疎通し、地域や産業界の意識改革に繋げ、システムのノウハウなどは他大学等に供し、学内でも確実に継承・発展させる。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	イノベーション人材養成システム改革状況	実践プログラムの開発・運用状況	実施体制	今後の進め方
B	b	b	b	b	b

総合評価： B（所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる）

(2) 評価コメント

大学の理念としてキャリア教育を位置付け、ラインを通じてキャリア支援を進める体制を構築した点は評価できる。学生及び教員の意識改革への努力は認められるが成果に結びついていない。また、学生が実施プログラムから受ける価値に対する視点が不十分で、プロジェクトも学内で出来る取組に終わっている。養成者数も大幅に目標を下回っている。今後は、大学院大学として独自の視点から博士人材養成方法を見直し、イノベーション人材創出とキャリア教育とをどのように同軌化させるかを明らかにし、博士人材養成を進めていくことを期待する。

- ・**目標達成度**：大学院大学という独自性や強みを活かしたイノベーション創出博士人材養成への取組が期待されたが、キャリア支援にとどまっている。当初の養成者数の目標設定が大学の規模から見て野心的な高い人数であったが、ポスドクに関してには目標に近い人数を達成しているものの、博士課程（後期）学生、教員への積極的なアプローチが不十分であり、博士課程（後期）学生の養成者数実績は目標を大幅に下回った。
- ・**イノベーション人材養成システム改革状況**：キャリア支援の取組が地道に実施されている点は評価できる。しかしながら、イノベーション人材養成という視点での教育システム、人材養成システム改革に特段の特徴が見られない。大学全体のポスドクター、博士課程（後期）学生、教員の本事業への理解、意識改革を進めるシステムの構築が必要である。

- **実践プログラムの開発・運用状況**：新教育プログラムを見直し、博士人材が民間企業への就職を視野に入れるようになった点は評価できる。しかしながら、本事業に参加した博士人材の人数が目標に対して大幅に下回っている要因を、教育プログラム、長期取組の効果を定性的、定量的に位置づけ、PDCA サイクルを廻すことにより、改善をしていこうとする努力が不十分であった。
- **実施体制**：学内の既存の組織・機構を利用して粛々と事業を進めている点は評価できる。しかしながら、企業等との協働による実施体制の構築、外部人材（特に企業経験者）の活用による企業開拓、企業との連携による本事業の実施が十分であったとは言えない。また、外部からの評価を受けるシステムの構築、学内教員、ポストドクター、博士課程（後期）学生への本事業の意義を理解させる体制の構築が不十分であった。
- **今後の進め方**：全体的に表面的な取組であり、キャリア支援に注力している。この5年間の取組の延長では、イノベーション創出人材の養成が期待できないことから、支援体制、プログラム内容を抜本的に見直し、プロジェクトを継続発展させることを強く望む。